

『第3回日産財団理科教育賞』の大賞候補が決定いたしました！
 7/24日産グローバル本社で行われる贈呈式で、候補校による成果発表が行われ大賞と理科教育賞が決定します

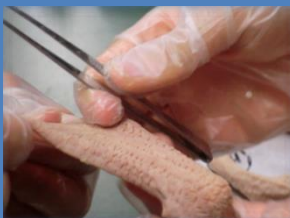
【神奈川県代表】

横浜市立三ツ沢小学校

『自然と自らかかわり、科学的に考えを深め合う学習の創造』

三ツ沢のまちは横浜の市街地であって、多くの自然を見つけることができ、四季折々の動植物の様子を観察することができる。そうした環境の中で、子どもたちは、自然に対して素直に驚いたり、それを伝えたり記録したりする姿が多く見られる。一方で、豊かな環境にあっても、その価値を感じたり理解したり、自分から疑問をもって追究したりする場面が少ないということが言える。このような実態を受け、子どもの学びの中で表裏一体である「体験」と「言語」を大切にしていく。

学習において言語は体験があって初めて成り立つ。また体験は言語がなければ学習にはつながらない。そこで、「自然とかかわる」「言語でかかわる」をキーワードにして、研究を行なっていくこととする。「自然と自らかかわり、科学的に考えを深め合う学習の創造」というテーマの前段には「自然とかかわる」、後段には「言語でかかわる」の意味が込められている。



【栃木県代表】

下野市立祇園小学校

『ものづくりの学習を通して自らの力で判断し表現する力を育成する』

「ものづくりにかかわる学習」を通して、知的好奇心・探究心をもって主体的に学ぶ力を身につけさせるとともに、試行錯誤しながら自らの力で考え判断し表現する力を育成し、社会の変化に対応し行動できる児童を育てたい。

これは、本校の学校課題である「自ら考え解決する子どもの育成～言語活動を通して論理的思考力を高める～」(生活科・理科学習を中心に)にもつながるものである。また、「ものづくりに関する基礎的な知識及び技能」や「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」を養い、科学や技術への興味・関心を高めることも目的とする。



【福岡県代表】

北九州市立鞆ヶ谷小学校

『子どもが自らの考えを創る理科授業の創造』

本校では理科学習における問題解決の主体は子どもととらえ、子どもが獲得した知識や技能を活用して、自然や日常生活の中で、適用したり、分析・判断したり、科学的に考察したりして自ら問題解決をしていく児童の育成に視点をあて、子どもと教師がつくる理科学習の在り方について研究を進めている。理科の学習過程に応じた明確な手立てを位置づけた「鞆ヶ谷小理科授業モデル」(問題解決のプロセス・単元構成の工夫)を開発し、日々の授業の中で実践すれば、子どもは自然現象に対する意欲を高め、実感を伴いながら理解するとともに、科学的な見方や考え方を身に付けることができると考えている。そこで、研究の着眼点を①「事象提示の工夫」②「観察・実験の指導の工夫」③「考えを深める指導」の3つにしばって研究を進める。



— 日産財団理科教育賞 —

子ども達の科学的思考能力や、教師の指導力を向上させる教育実践において、多大な成果をあげ、かつ成果の波及効果が期待できる実践に『日産財団理科教育賞』を授与します。その中で、特に2年間の実践による「学びの質の向上」(伸び代)が大きいと判断された実践を『大賞』に認定します。(大賞は該当なしの年もあり)

大賞：100万円 理科教育賞：50万円

理科教育賞「ポスターセッション」新設

7/24日産グローバル本社で行われる第3回理科教育賞贈呈式では、上記大賞候補3校以外の2012年度助成校の成果ポスターを展示し、贈呈式参加者(助成校の先生方ほか)が選ぶ理科教育賞「ポスターセッション」も新設し、褒賞いたします。

皆さんの参加をお待ちしています。